

MB&F

マキシミアン・ブッサー
&



マキシミアン・ブッサーの
レゾナンス・オブ・タイム

マキシミアン・ブッサーの
レゾナンス・オブ・タイム

自分の進むべき道

「まさか自分が『大物』といわれるようになるなんて、夢にも思いませんでしたね」。目の前に座るエキセントリックな顔立ちをした紳士はそうり出した。マキシミリアン・ブツィー。三十一歳でジュネーブのハリ・ウインストン・レア・タイムピースの社長に就任した時計界の若きラブレッドである。

究極のコラボレーションモデル「パス」シリーズを立案し、フラソワ・ポール・ジュルスなど才能あるが当時まだ無名の独立時計師たちを次々と世に送り出した。誰も眼しなかったことをやってのける手腕は、高級時計に携わる人ならば誰もが知るところだ。

ハリ・ウインストン・レア・タイムピースのトップにあった彼は、誰もがうらやむ地位や成功を手に入れたかに見えた。しかし「E.O.になり夢のような成功をおさましたが、同時に『今の仕事は本当に自分が求めているものなのだから』

と」という自問も繰り返してしまっ。そんな中、ある理想的な考えを思い描いたのです。それは、お互いが尊敬し合える、創造性豊かなごく少数のクリエイターたちから成る精英集団を結成し、これまで見たことのないような時計を造り出すという理想でした」

その実現への第一歩は、ジュネーブ行きのフライトの中で自由奔放に舞った風変わりなタイムピースのスケッチ画からスタートした。新たな「パス」シリーズにもなりえたそのアイデアを彼は次のように語る。

「ハリ・ウインストンの職を辞して理想として思い描いていたプロジェクトに注ぎ込む一大決心をし、そして誕生したのがMB&Fでした。子供のころに持っていた何をするのも可能だと思っていた純粋な気持ち。そのようなチャレンジしていく精神を共有できる優秀な友人たちと共に新たな仕事をしていこうと……」

ひとり、またひとりと仲間が増え、集まったクリエイターは二十人の精英。何百時間も費やしてスケッチを

立体的なデザインに仕上げたエリック・ジロー。独立時計師であるピーター・スピック・マリナーがブツァーの呼びかけに応えて制作活動を始めたのである。しかし、驚くことにメンバーは、プロジェクトによって毎回変えていくという。

「MB&Fは、『ブランド』ではないからです。ブランドは常に『DNA』というものを確立しようとしています。ファッションでも時計でもそうです。自分たちのブランドらしさを求め、何かしらのモデルに継承しよう」と

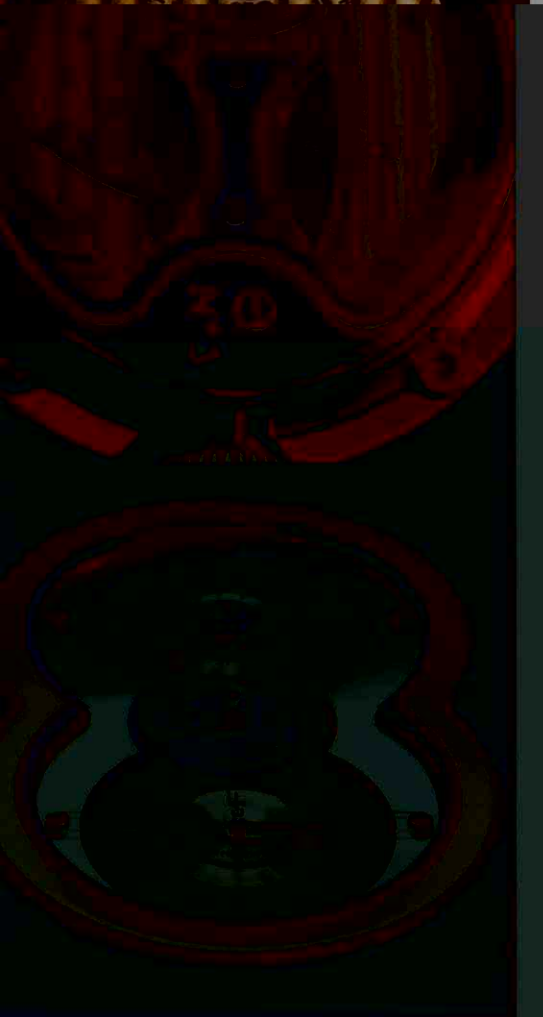
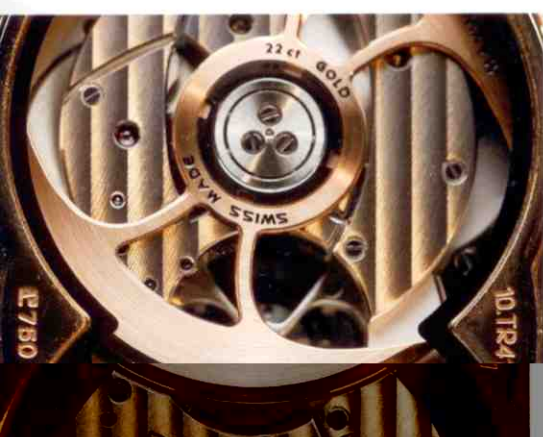
しますが、MB&Fは「らしさ」というものを意図してつくることはありません。ですから、次のモデルをつくる時にはクリエイターも変わりますし、たとえ時計に精通している人が見てもMB&Fの作品だと分かるものにはしたくないですね。それがどんなものなのか——これをご覧ください」

無限の形をした時の器

「名前はおロロジカルマシーンNo.1」
二つの円が重なりひとつの世界を

形作っているその形状は、永遠の時を表現するかのよう無限大の形「∞」を連想させる。彫刻のような立体感を持ち、時計史の変遷の中に突如現れた、突然変異のようでもあった。ブランドを象徴するようなロゴも一切排除されている。

「約二百五十年の時計製造の歴史の中で、誰がいつ決めたのかは分かりませんが、ムーブメントは必ず円形か角形が一般的です。しかし、われわれにはそのような固定概念はありません。スイス・バーゼルのウォッチフェアで、趣向を凝らした新作が毎年発表されていますが、私に言わせてもらえばどれもみな同じです。従来どおりつくられたムーブメントに特殊なケースをかぶせているにすぎません。オロロジカルマシンのこの一モデルをつくるためにゼロから開発したムーブメントです。今後エッジ型のモデルを考案したら、不可能と言われようともエッジ型のムーブメントを誕生させるでしょう。時計という概念からの解放。それがMB&Fのテーマなのです」



オロロジカルマシーン No.1

ブツァー自身「時計ではなく、あくまで時を伝える立体的な装置」と語る。デザインや機構などすべてが型破りで、時計という概念すらくつがえすMB&Fのファーストモデル。ムーブメントは376個のパーツと81個の機能性を備えたジュエルからなる完全オリジナル製。個別のダイヤルに時間計と分計、中央にトゥールビヨン。7日間パワーリザーブ。ケースは長さ84mm、幅49mm、高さ14mm。年間製造30個、3年間限定。価格17,900,000円(予備)。